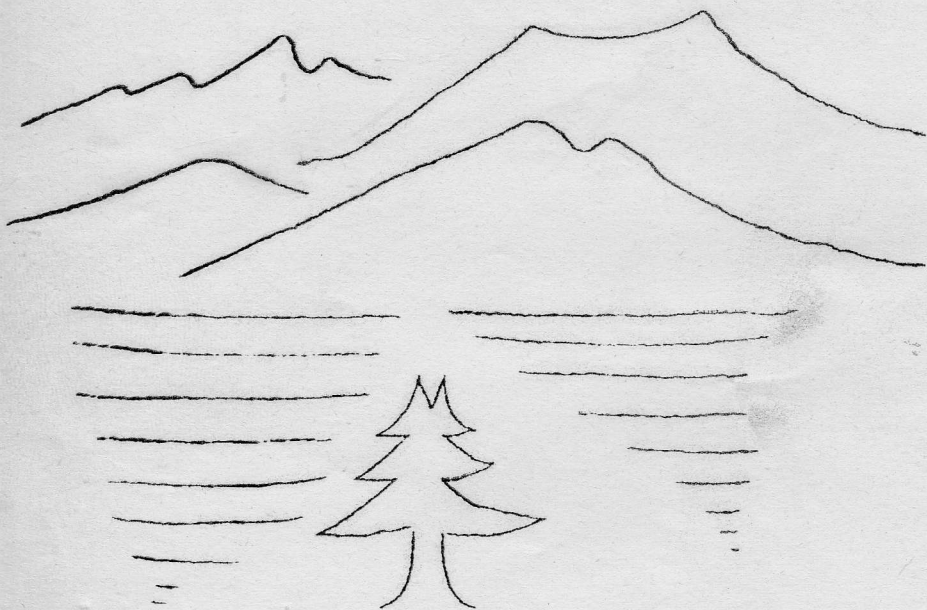


“郷研が行く”⁶⁶⁹⁹

—信州の旅—

上田・松代・長野・松本

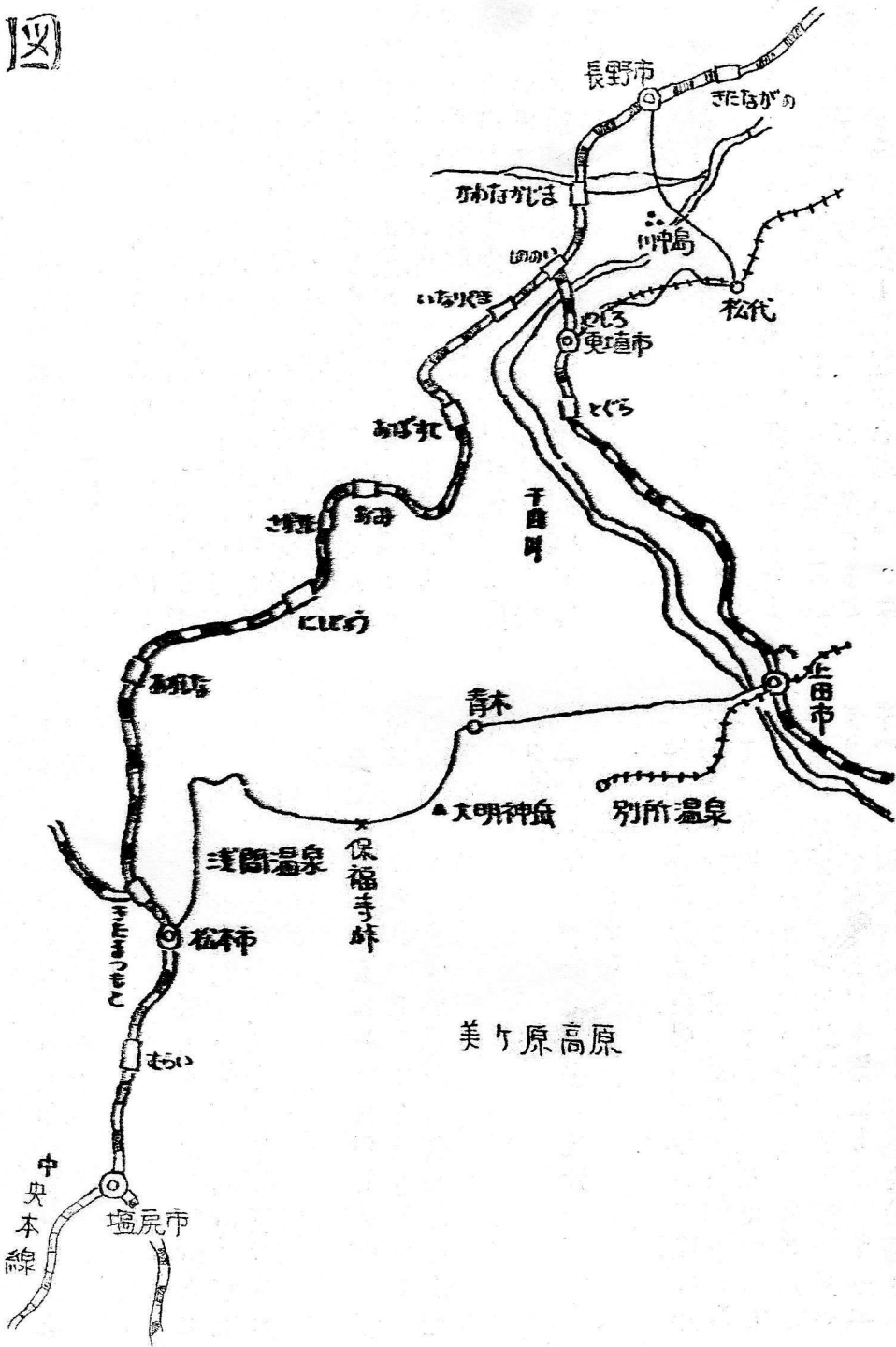


昭和43年度夏期合宿

8・26～30

～名古屋大学郷土研究会～

地圖



★上田市

面積八〇・五km²
人口七四、一八六

長野県の北東部、千曲川沿岸中流にて、きた上田盆地の中部にある。千曲川は市の南東から北面に流れ、北には太郎山へ一六四m、南には小牧山がそびえて、千曲川沿岸は土地が平らで桑園がよくみられ、米・麦・野菜類などが多く作られているのが車窓からよく見える。産業は製糸工業を第一とし、機械・生糸・バター・練乳・葉煙草などを産し、マユ・蚕卵紙の取引が盛んである。ここは天正年間(一五七〇年代)に真田氏の城地となつてから有名になり、明治維新前は、松平氏五万三千石の城下町であつた。

。上田城跡(史跡)

▼上田駅から徒歩約一五分。

天正一年(一五八三)真田昌幸(まゐりき)が千曲川の段丘上に築城した旧跡。昌幸・幸村父子が六文銭の旗のもと、徳川の軍を撃退した話は名高い。いまは復旧工事がほどこされ、城櫓三棟と巨大な石垣と濠の一部がのこつており、信越線の車窓北側に見える。この一帯は上田公園で、展望がよく、各種の競技場が

とどの、本丸跡には上田博物館がある。櫓が多いので花の名所。

。小牧城跡

▼上田駅から千曲川をへだてた対岸にある。別所行基バスで三好町まで五分、一五円、一三回。下車後徒歩二km、四〇分。

天文年間(一五三二)武田信玄が信濃左攻略したとき、ここに千兵を置いて、坂城(さかき)・葛尾城の石上氏を牽制した跡である。

。月窓寺

▼駅の北東一km、徒歩一五分。

(東遷)曹洞宗

寺内に幕末洋式兵学の先駆者、赤松小三郎の墓がある。彼は勝海舟の門下となつて、長崎に行き、オランダ人について兵学・数学・航海術・語学などを学んだ。京都に塾を開いた時は門下生が多く集まり、すぐれた人材を輩出した。慶応二年(一八六六)九月、上田藩主の招きに応じて帰国しようとした数日前に、京都東洞院五条通りで殺された。三五歳。

● 大法寺 長野県小県郡青木村宇当郷
 ▼ 上田―大法寺入口 バス三〇分

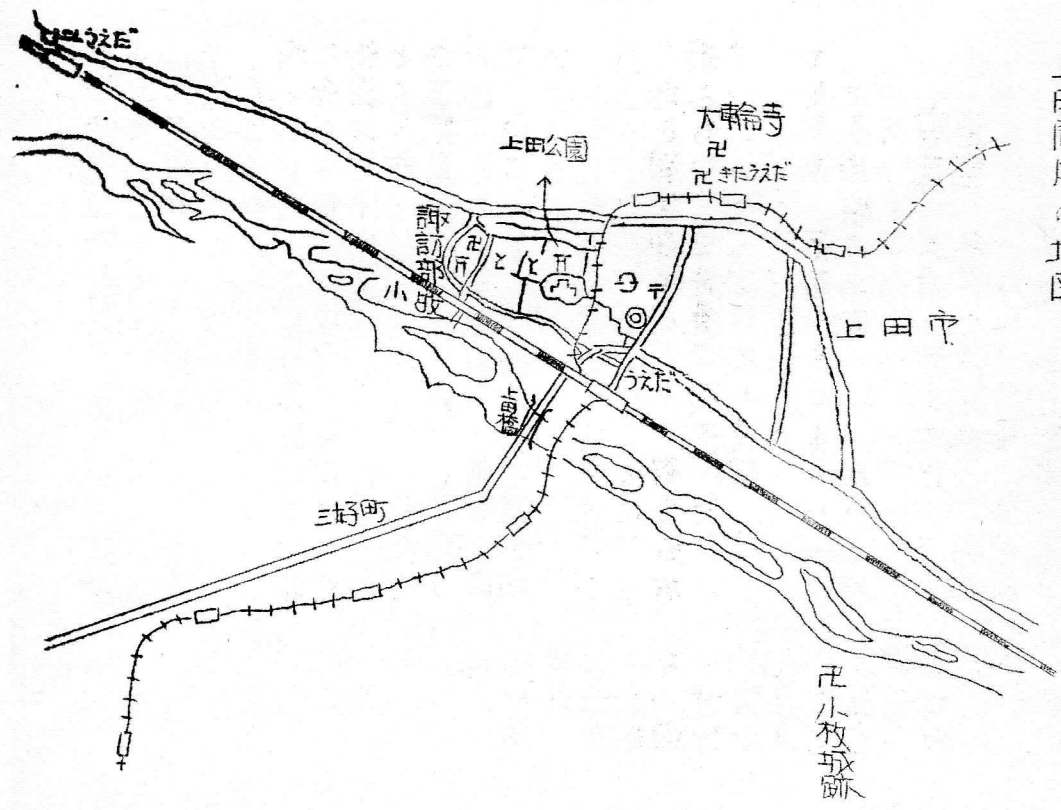
下車後徒歩一五分。

〔宗派〕天台宗 〔国宝〕三重塔
 観音堂須弥壇・木造十一面観

音・脇侍普賢菩薩立像

美しい姿の三重塔があるのて有名な寺である。三重塔は寺のうしろの丘の中腹にある。俗に見返えりの塔といい、正慶二年（一三三六）の建築で、遠くからその美しい形がみえる。すべて純日本風の手法によって作られた安定感のある塔は、美しい木煙とともに、鎌倉時代の風格をあらわしている。各層方三間、屋根はいすれも檜皮葺（ひのかわぶき）、屋頂に相輪を附している。

上田周辺の地図



面積四〇四・一
人口二七一、五八七

長野駅に降り立ってすぐ目につくのは、駅前広場に、妙善菩薩のような立像が立っていることと、ふりむくと、いま出て来た長野駅が仙堂伽藍の建物であるということだ。長野といえば善光寺が頭に浮かぶが、その仙都の象徴がここによく現われてゐる。広場の立像は天竺毘舍離国月蓋長者の娘如是姫の像である。

長野市は県の北部、飯綱・戸隠の二山を背にした善光寺平の一角にあつて、裾花の扇状地上に発達した県下第一の都市である。ここには善光寺があるのだ、正かしは善光寺村といひ、越後・越中から江戸に通ずる要路にあたつてゐた。あとは大部分が松代藩の領地で、善光寺の付近は善光寺領で、その門前町として発達して来たので、いまもそのふん囲氣がのこつてゐる。

市は善光寺のある丘から南に傾斜をなして、北西部に大峰山（ $1,128m$ ）・郷路山・旭山（ $748m$ ）などが町をかこむように並び、裾花川が旭山の北でこの山地を破って南流し、犀川に合流している。ここは北国街道と北国西街道との会合点にあたるところから、むかしから宿駅としてもそうとうに賑わっていた。

が、明治維新に長野県庁がここに置かれ、さらに筑摩県の廃止によって長野村は一躍信濃国をおさめる行政の中心となった。

善光寺・仁王門前の大通りを大門町といひ、そこから南東に長野駅に向かうゆるい坂道の二細ほどの街路は、中央通りまたは長野銀座とよぶ近代的な大通りで、旅館や商店が立ち並んでいる。中央通りのは西は主として諸官庁・学校地区で、東は主として商業区や娯楽地区である。

なお付近には高原・温泉などがあり、豊富で、仏都であるとともに、すぐれた観光都市として、観客が絶えぬ。主産業は木工・製糸・了んズ・リンゴなどの果樹。

●善光寺 元善(もとよし)町
▼長野駅の北約2km。バス一〇

天台・浄土両宗
本堂（深間七間、桁行

本堂（深間七間、桁行一六間、重層、屋根檜木造、総檜皮葺、江戸中期の作。宝永四年再建）付、厨子一基（三間厨子、寄棟造、本瓦形板葺）

〔重要文化財〕 金銅阿彌陀如來および同脇侍立像（鎌倉時代）
銅造釈迦涅槃像（鎌倉時代）
紙本墨書源氏物語書一卷

〔拝観料〕

大勧進・大本願・内陣Ⅱ八
〇円 本堂Ⅱ四〇円

寺は大勧進(天台宗)の僧寺と、大本願(浄土宗)の尼寺との二つにわかれてゐる。本尊は欽明天皇の一三年(五五二)一〇月一三日に、百済国聖明王から経巻とともに奉納された一光三尊仏という金銀阿彌陀如来で、わが国ではもっとも有名な霊像である。日本へ渡ってから崇仏派の蘇我氏と、排仏派の物部・中臣二氏との争にまきこまれ、難波の堀江に捨てられたのを、推古天皇のとき(五九四)に信濃の人若麻呂(人へ本田善光)が拾いあげここに持って来て、皇極天皇即位元年(六四二)を記念してここに寺を建て、尊像を安置したのがこの寺のはじまりと伝えられてゐる。むかしから、一生のうち一度は善光寺詣でをしないと、阿彌陀浄土にいつてからその光明に浴することのできなないなどといわれ、いかり善男善女の参詣が絶えない。

本尊は妙仏で開張はしない。その代り本尊の厨子の下にまつ暗な廻廊があり、戒壇めぐりといつて、手探りでこれをくぐる風習がある。廻廊の中央部(ちやうど厨子の下に大きな「カギ」があり、これを「極楽のお鍵」という。参拝者は御本尊と血縁を結ぶためにこれを頂く。

善光寺の建物はたびたび炎上したが、そのたびに再建された。いまの本堂は元禄一六年(一七〇三)に永井伊賀守真敬・真田伊豆守信房らが幕府の命によつて舊國し僧慶雲が諸國に勧進して、宝永二年(一七〇五)四月に専初式を行ない、四ヶ月の歳月と一、九七〇両を費して、ようやく完成したもので、金堂ともいい、国宝になつてゐる。

境内は五九、〇〇〇坪(一七、八五一坪)あり、仁王門・山門・鐘楼・経蔵・忠霊殿・大勧進・大本願などの堂々とした殿堂が並び、天台宗塔頭へたつちゅうしが二五院、浄土宗塔頭が一四院ある。そのほか境内には彌仏・六地藏・仏足石・駒返橋・親營旧跡・法然旧跡や七社・七池・七清水・七塚・七寺・七小路などという四九カ所の霊跡がある。

●寛慶寺 東え門町

▼善光寺山門の東側。

〔宗派〕 浄土宗 開創 栗田入道範寛

いまの建物は天正元年(一五七二)にできたもの。栗田範寛は多田満仲の子孫で、治承四年(一一八〇)に鎌倉幕府の命をうけて戸隠山の別当となつた人である。

。往生寺（刈萱堂） 往生寺町

▽西長野駅の北約三km

▽善光寺の北西約七〇〇m

▽浄土宗 山邑 守楽山菩提

心院 釋觀料 三〇円 地蔵尊二軀・大日如来像・親鸞尊十尊名号・刈萱絵詞 伝二軸

石童丸の話で有名な刈萱童心父子往生の旧跡と伝えられ、俗に刈萱堂といわれ、善光寺平を下にみて眺望がよい。境内に刈萱廟・来迎松・刈萱杉・吉良杉・鏡井戸などがある。この「夕焼」は童謡、夕焼け小焼けで有名。

刈萱童心は、俗名を加藤左衛門繁氏といひ、二歳のとき世の無常をさと、出家して京へのぼり法然に師事し、さらに高野山で仏道に専心した。その子石童丸は母とともに、父をたずねるが、母は途中で病にたおれ、ようやく父道心に会ったが、親子の名乗もあけず、弟子として道心に仕えた。しかし、それでも道心は肉親のきずなは修道のさまたげとなる。石童丸とわかれ、長野に来て庵を結び、八三歳の高齢で大往生をとげた。のちに石童丸もあとを追って来り、建保

四年（一一一六）この地でなくなった。

・如意姫像

長野駅前（の広場に立っている像である。市内久一（もと）帝室技芸員、東京美術学校教授）の作。

・城山公園 善光寺本堂の東

村上氏の将横山信濃守の居城であるところから城山の名がある。川中島古戦場の一つで、天文一四年（一五五五）の戦いに上杉謙信がここに陣をととのえ、川の南方大塚の武田信玄と百数十日にわたって対陣したところである。櫓の名所で四月中旬（下旬）が盛り。運動施設。動物園がある。入口近くの噴水。花時計が人気高い。観光館の展望台からの眺めはすばらしい。

☆交通がイ

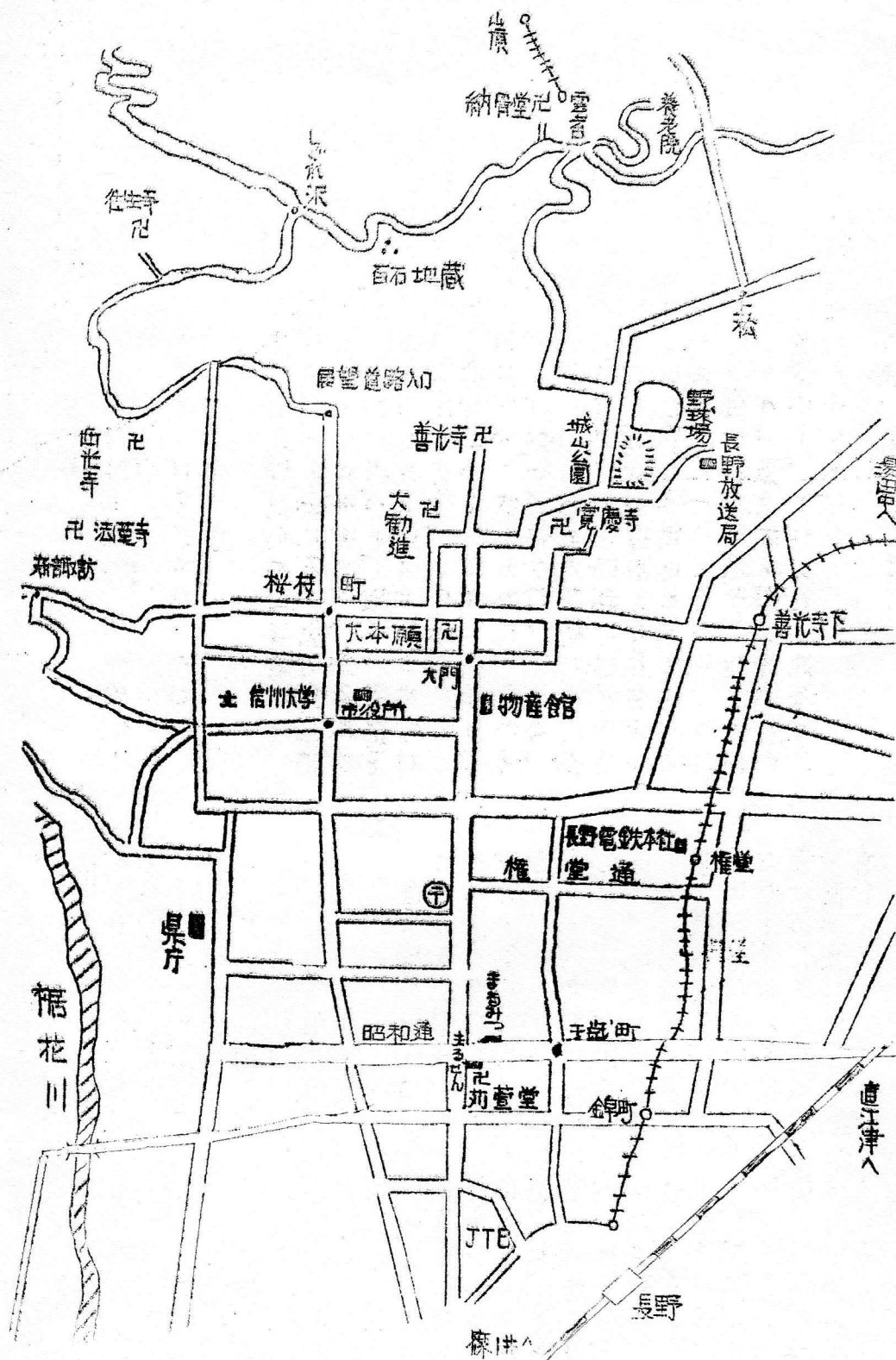
長野↑↓松本

篠ノ井線 一時間四〇分
六三・四km 二三〇円

急行 一時間二五分

急行券 百円

● 長野周辺の地図



松代

長野市

▽信越本線屋代駅→松代 長野電鉄

一三分、五〇円

▽長野→松代 バス三〇分、六〇円、

五六回

幕末の志士佐久間象山の生きた町、第二次世界大戦の末期に大本営の候補地となつた町——それが松代だ。湯井終がうも遠く、岩盤が固いのて敷しい空襲もたたられるというので選ばれたこの町は、千曲川の右岸にあり、三方が山に囲まれ、中にも皆神山へ五七九(丸)が立し、象山(四七六(丸))が町の西に、象がうずくまるような恰好で横たわっている。ここは真田市一〇万石の城下町として発達したところだが、戦国時代には武田信玄の輩下の山本勘助が設計をした海津城をひかえ、北信第一要害地として知られた。幕末天保年間(一八三〇年)ごろには藩主真田幸賀が幕府の老中となり外国係となつてから、藩主佐久間修理(象山と号す)を登用し、太い針外政策や文武学校などで実をあげた。

・真田別邸 長野市松代町

▽松代駅から徒歩五分。

松代藩主真田家の別邸で、旧藩時代の面影を残している。そのそばに、文武学校もある。邸は文久三年、学校は嘉永六年の建築。

・象山神社 長野県松代町

▽象山の麓にあつて松代駅から八〇

〇m

祭神 佐久間象山 例祭 四月一日

日・一〇月一日

佐久間象山は通称を啓元助、号を象山といつた。鎌原桐山・山寺常山とともに松代藩の三山の一人、年少のころは活紋禅師。家老の鎌原桐山に師事し、漢籍を学び、ことに算数学に長じた。天保一〇年(一八三九)江戸に出て佐藤一斎の門にはいつた。志高く、心を海外の事情にせ、蘭学・砲術を学び、木挽町に居を定め、西洋砲術・兵学を講じた。吉田松陰・勝安房などもその高弟である。安政元年(一八五〇)門人松陰が渡米を企てた罪に問われて松代に幽閉された。九年後にゆるされたが、元治元年(一八六〇)一攘夷派にねらわれて京都で兇刃にたおされた。

●海津城跡 長野市松代町
▼松代駅の西一〇〇m。

松代城ともいい、天文三二年（一五五三）武田信玄が上杉謙信勢にそなえるため、山本勘助に命じておすか八の目で土塁を築き、のちに改修した甲州流の名城である。武田氏の滅亡後は織田信長の所有となり、元和八年（一六二一）以降、真田氏の所有となつて明治維新に至つた。いまは石垣ばかりが残り、桜花にむかしをしのぶばかりである。

●大本營跡 長野県松代町
▼松代から西条までバス一〇分、
二〇円。

太平洋戦争の末期に、本土決戦最後の拠点として造られたもの。白鳥山・象山・皆神山の地下に、延長一〇kmに及ぶ大地下壕と、三段階にわたるヤトン式の半地下建造物がある。象山に軍が、白鳥山に皇室が入る予定だったが、現在白鳥山の一部は気象庁の地震観測所になつてい

●川中島 長野市川中島町
▼信越本線川中島付近一帯をいい、
長野―松代間を走るバスの便があ

る。長野からバス三分、五〇円

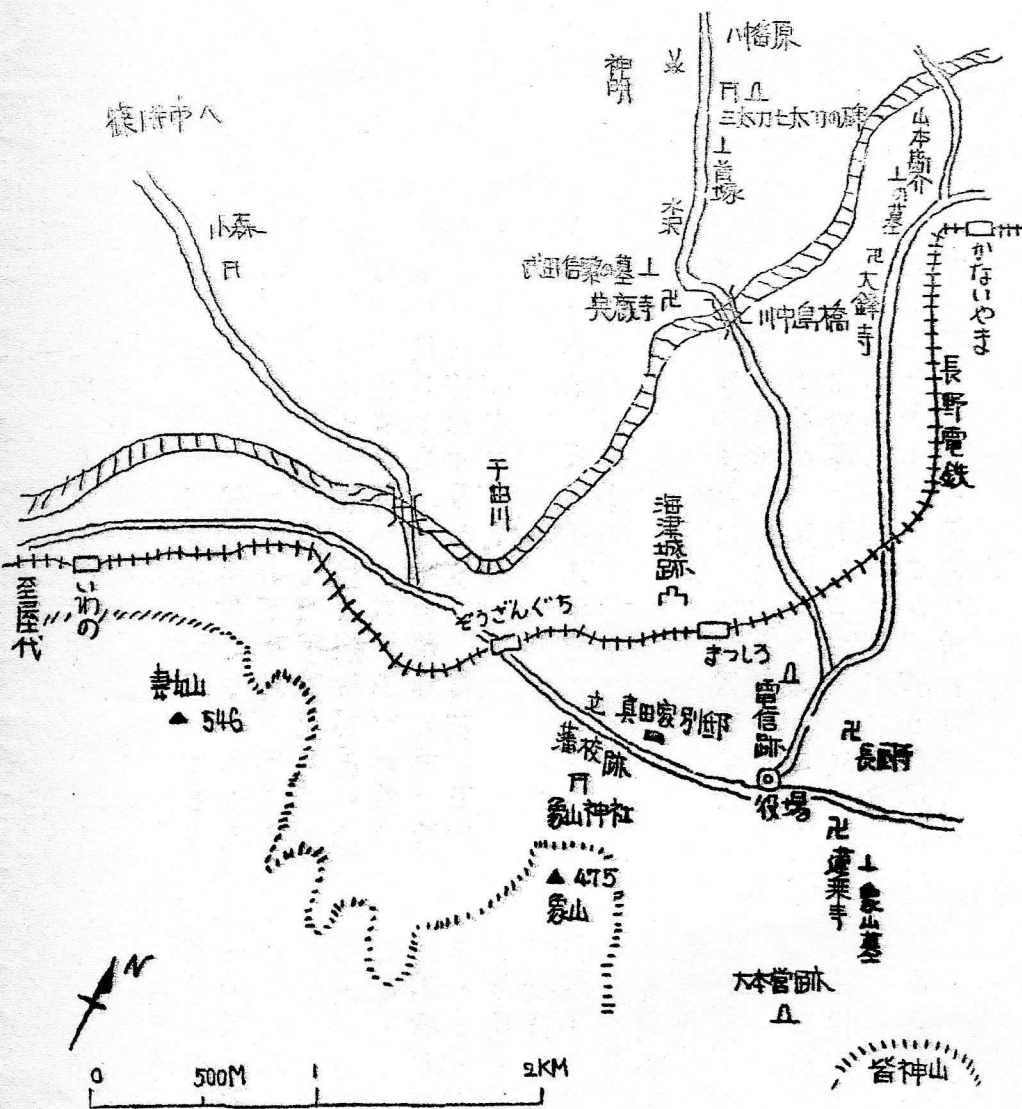
善元寺平の中央で、犀川と千曲川の流泉に近い。村上義清が武田信玄に敗れ、上杉謙信に頼り、謙信が義清の援めに信玄と戦を交えた古戦場である。まはその中心地の八幡原の森の中に八幡神社があり、そこから敵一〇mはなれた西将敏戦地として伝えられる桑畑の甲に石碑が建っている。弘治元年（一五五五）と永禄四年（一五六一）の戦いのさまを遠くしのぶ夏草ばかりが茂っている。付近には信玄の弟、典厩信繁を葬った典厩寺や、山本勘助・兩角豊後らの勇將の墓がある。八幡原からは、古陣営だった妻女山や茶臼山が見ゆにせる。この合戦で謙信が単騎で信玄を襲つて一騎打ちした話は名高い。

鞭声粛々夜渡河 眺見千兵擁大牙
遺恨十年磨一劍 流星光底逸孤

●更埴市 面積七八・五km²
人口三二、二五二 長野県

もとの稲荷山。厩代町・埴生町を併せにしてできた新しい市。千曲川にそって農業のさかんなところで、米の反収穫の多いことと有名。切花の出荷も多い。市名は更級郡の更、埴科郡の埴をとって

☆松代・川中島の周辺の地図



●松本城（国宝） 松本市
マ中央線松本駅下車バス五分

だが、築いた城なのか。確とした資料はない。だが慶長の初年、石川数正とその子康長が建てたというのが通説である。

その後、城の主はめまぐるしく変わる。それだけに領民に対しては愛着が薄かったのか、城主と領民の間には、いくたびかはげしい争いがくり返された。

なかでも大がかりだったのが貞享三年（一六八六）の嘉助騒動。御用金や納米の高率に苦しんだ農民は、中萱村の庄屋嘉助を佐頭に、城下に押し寄せた。その数約一万人。城に窮した藩の役人は、いったん農民の強訴を聞き届けるとどまし、群衆を解散させた。その後、嘉助ら頭目二十九人をとらえたのである。ほりつけが八人。さらに首が三十一人。城下町の人たちはいまもいっただんていいる。

息絶える嘉助は、末代までの恨みをこめて、天守閣をにらみつけた。それで城の天守は以来南面に傾きっぱなしなのだ。もともと、これはさる三十年の解体修理以前の話、いまは、まっすぐ建っている。城の特徴は全くの平地に築かれた平城で、石垣も低く天守を頂点として、乾小天守、渡櫓、辰巳階櫓、月見櫓の各種からなり、一箇の天守閣を構成している。雄偉の作り

である。城をひきたたせているものは、なんといってもアルプスのたえずまい。四季おりおりにながめてあきない城である。



個人装備

シヨラフあるいは毛布。衣類二着。雨具（ハカサ。ポンチョ）。クツ下ハモ。キヤラパンシューズ。リユツク。ナツプサック。針。糸。サロンパス。食器。薬。マツナ。ロウソク。懐中電燈。ロープ（物干用のヒミ）。米（一斗）。軍手。帽子。洗面用具（タオルニ枚以上）。学割ニ枚。バリタン（2枚）。

団体装備

テント（5つ）。ハンゴ（10個）。コツフェル。ナタ（1）。ノコギリ。カニキリ。固形燃料。タワシ。洗（2購入）。包丁（1）。救急箱（1）。ツト。カイゼ。包帯。消毒剤。シヤ。シオ（2）。トラップ（2）。カメラ。シヤ。ヤル（2）。ナベ（2）。マナ板。赤ヤン。虫さされ。カゼ薬。胃腸薬。パニ。リ（2）。オロナイン。バケツ（一個購入）。

集合 ^国名鉄名古屋駅 7:30
金の柱.

★
日程
★

8月20日
★才1日目

名古屋 — 松本(昼食) ^(上田行)バス — 七嵐宮平 ^{徒歩} — 保福寺峠(泊)
8:20 信濃 11:54 約15km 2:00頃 約8km 4:00

8月27日
★才2日目

保福寺峠 — 大明神岳(1232m) — 青木(泊)
8:30 約3.5km 10:00 1:00 約6km 3:30
[昼食]

8月28日
★才3日目

青木 — 大法寺 ^{バス 50分} — 上田 昼食 上田城跡
8:30 約27km 9:30 10:30 約10km 11:30 月窓寺(小牧城跡)
上田駅 — 屋代駅 ^{15分} — 松代駅 (白)
2:04[3:52] 2:30[4:20] 2:32, 2:51(特), 3:35 2:47, 3:01, 3:50
[4:23, 5:27] [4:38, 5:42]

8月29日
★才4日目

松代周辺散策 — 川中島 ^{バス 30分} — 長野 (泊)
8:30 ~ 昼食 ~ 1:00 約3km 2:00 3:30 4:00
真田別邸・象山神社
海津城跡・大本営跡

8月30日

長野 — 松本(松本城) — 名古屋
午前中 11:30 1:13 4:21 7:55
善光寺等

終了